

「共に生きる」社会の創造と 協同労働運動の組合員に求められるもの ー協同労働の団づくりの基本 1ー

2020. 6. 17

日本労働者協同組合（ワーカーズ・ユープ）連合会
センター事業団 副理事長 未来人財部長
藤田 徹

1. 激動の時代、働き方、生き方が鋭く問われているーポストコロナ社会とは

- ①労働者は雇われなければいけないのか
- ②グローバル化に勝ち抜く（経済成長）しか豊かさの道はないのかー「命の経済」へ
- ③環境危機をどう乗り越えていくのか
- ④自由と民主主義・平和の危機にどう立ち向かうのか

2. 考え続けてほしい「3つの問い」

- ①協同労働とは何かー歴史と原則
- ②協同労働はこの社会に必要なのか
- ③協同労働はどうしたら実現するのかー協同労働定着プログラム

3. 労協運動の歴史から学ぶ

- ①全日自労の運動とは何だったのか?!ー失業・貧困・戦争との闘いから「労働者」が主人公の運動へー守られる労働者から創造する労働者へ
- ②理念・原則の大切さー1999年の危機、「守るべきものとしての原則」ではなく「実践の自由を保障するものとしての原則」という捉え方
- ③労働者・市民への信頼ー専門家支配を超えて
- ④全国観点の重い意味
 - ・ 人間の保守性、限界の自覚ー学ぶこと、挑戦すること
 - ・ 全国組織のダイナミズムとそれを支える経営指標
 - ・ 労協新聞の活用・拡大と、全国会議・研修の徹底活用
- ⑤「私物化」と「赤字経営」との闘いの中できたえられる
- ⑥国家と資本の支配をこえて、市民主体の公共をつくる

4. 組合員としてこだわって欲しいことー協同労働へのこだわりと組合員・地域の主体性を引き出すこと

- ・ 協同労働の現場、事業所づくりを仕事の中心に置く強いかまえとビジョンの共有

- ・ 人、仲間の可能性への信頼と仲間と共に生きていく覚悟ー人間観
- ・ 「命の特徴」(大田堯)、基本的人権への感覚
- ・ 本質的、大局的に物事をつかみ、考え抜く習慣
- ・ 「よい仕事」と「協同労働」の関係を問い続けるー「よい仕事観」と「協同労働へのこだわり」
- ・ 「権力」「金の力」に負けない自分をつくる努力
- ・ 「共感」と「協同」を組織するー社会を変えるキーワード
- ・ 仕事おこしは仕事の発見からー地域・市民の必要に出会い、こだわること
- ・ 自らを越えるリーダーを育てられるか
※全員がリーダーシップを身につけるーリーダーは事業所に1人居ればいいのか!?
- ・ 「変化に対応する人」から「変化を起こす人」へー主体性と自らを変える意志
- ・ 目標を掲げる、先頭を走る、決断する、伝えることの重要性
- ・ 感性を高めるー映画「ワーカーズ」上映前の反応
- ・ 「シナリオづくり」「戦略作り」「夢を描く力」
- ・ 他人は変えられないが自分は変えられるー主体的に学ぶ意志

5. 協同労働の現場・事業所をどうつくるのか

- ・ 組合員は協同労働の何に魅力を感じているのか

<3つの核心点>

ア) 自由に物が言える現場・事業所づくりー話し合いの仕方、ルールを決めることの重要性

イ) 7つの原則を軸とした協同労働の「価値」を共有する現場・事業所づくり

ウ) 協同労働の学び合いの場を豊かに創造する現場・事業所づくり

①自由に物が言える現場・事業所をどうしたらつくれるのか

- ・ 物が言える「場」の必要ー団会議、全組合員会議、現場会議の量と質
- ・ 情報の共有ー話し合いの前提をつくる事実に基づいた情報の共有、エピソードなども入った「週報」「月のまとめ」の活用、労協新聞の活用など、全国の情報の共有を
- ・ 物が言いやすい文化ーまずは「受け止めてくれる」、「違いが大事にされる」
「小さな声が大事にされる」文化をつくる

ex. 団会議の工夫、社会連帯の活用、日常的な交流 etc...

②7つの原則を柱にした協同労働が大切に「価値」の共有を

- ・ まずは所長の「協同労働観」をみがき続けること
- ・ 全ての原点は「よい仕事」
- ・ 「よい仕事」と協同労働をつなぐー仕事の崩れは関係性の崩れ
- ・ 「仕事おこし」と「よい仕事」をつなぐ
* 「組合員」と「社会」をつなぐ架け橋としての「よい仕事」「仕事おこし」
- ・ 意見が対立した時や迷った時こそ7つの原則に意識的に立ち戻る習慣をつける
- ・ 協同労働の社会的意味を繰り返し考え学ぶ
* 時々の情勢をおさえる

③協同労働の学び合いの場を豊かに創造する

- ・ 「団会議」は最大の学びの場ー意見の違いや対立を発展の契機にできるか
- ・ 全国組織の有効活用を主体的に考えるー交換研修、現場視察、全国会議への参加など

- ・事業所レベルでの協同労働やよい仕事の研修計画をつくるー予算化と年間スケジュール
 - * 特に「事例検討」を深められる力をつける
- ・「地域」は学びの宝庫ーニーズの発見、協同集会の開催、100 人の聞きとりを通じて地域を知る

④仕事おこしは協同労働を理解する最大の経験

⑤経営の主人公へー新しい社会を運営、経営する力量を高める

⑥その他

- ・「よい仕事」＝労働条件論におびえないー「労働環境を自らつくれる場としての協同労働」
また「組合員は自らの意志で協同労働を選んだ主体者」である。
- ・組織への悪慣れ、我流への警戒ー鮮度の高い所長であり続ける努力
- ・管理型、請負型、放任型リーダーから協同型のリーダーシップへ
- ・所長の右腕、左腕をつくるー自らの想いを率直に伝える大切さ
- ・行政との関係づくりの大切さー共に町をつくる理念、想いの共有を

6. 今何故、社会連帯経営なのか

- ・社会連帯機構を何故つくったのかー協同組合組織は保守化し、社会性を失う危険性をいつもはらんでいる
- ・「狂気の時代」が始まっているー戦争の足音と基本的人権、自由と民主主義の破壊。そして環境の危機
- ・東日本大震災、3.11 原発事故が問いかけることー権力と資本による力の支配と、差別構造の露呈、経済成長ー辺倒の戦後日本社会のあり方の破綻
- ・投機を本質とする資本主義の根本問題ー人間の商品化と排除、社会の分断と破壊
- ・国家、市場を制御できる強い市民社会をつくる。
- ・超少子高齢化、人口減少社会ー「持続可能な社会」「排除のない社会」
- ・沖縄から学ぶものー譲れない価値、文化、歴史「自分たちの社会は自分たちでつくる」覚悟

7. 今年度最大の焦点は何か

- ・法制化の実現ー市民、労働者が主体となり、仕事と地域をつくる時代の先導役に
- ・その拠点としての「みんなのおうちづくり」運動
- ・人と地域に必要な社会連帯運動の自由な展開
- ・それらを支える経営の改革

《参考文献》

- ①「協同で仕事をおこす」(コモンズ)
- ②「協同労働の挑戦」(萌文社)
- ③「経営者の条件」(ダイヤモンド社)
- ④「マネジャーの基本&実践力がイチから身につく本」(すばる舎)
- ⑤「クロネコヤマト 人の育て方」(中経出版)
- ⑥「降りていく生き方」(太郎次郎社)
- ⑦「奇跡の職場」(あさ出版)